

4月28日

若者の視点をまちづくりに
水沢高校と協定を締結



市は、県立水沢高校（菅野誠二校長）と「連携・協力に関する協定」を締結しました。これを契機に市職員と生徒の連携強化がされ、まちづくりや地域課題研究などが共に行われます。菅野校長は「生徒が地域の大人と交流することは大切。高校生らしい視点を生かしながら、一緒に活動していきたい」とこれからの期待を語りました。

4月28日

企業版ふるさと納税寄付寄贈式
創業支援に活用



市は、世界を代表するばねメーカーの日本発条（株）より、3年度の企業版ふるさと納税として100万円の寄付を受けました。グループ会社の東北日発（株）（北上市）の工場が市内に立地されていることが縁で寄付につながったもので、東北日発から目録が贈呈されました。寄付金は、産業基盤の強化などを目的とした創業支援事業に活用しました。

4月29日

勇壮な舞で伝統をつなぐ



日高火防祭が3年連続で中止となったことを受け、市文化会館（Zホール）を会場に代替イベント「つなぐ伝統 ひぶせの祈り」が開かれました。当日は観客を限定し、イベントの様子をライブで配信。伝統の打ちばやしや纏（まとい）振りのほか、3年度と4年度の25・42歳厄年連による勇壮な舞も披露され、次代へと伝統をつなぎました。



5月3日

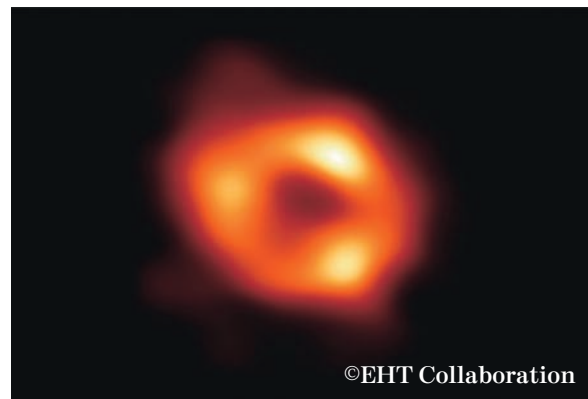
3年ぶりの子供騎馬武者行列
堂々と市街地を行進



駒形神社春祭り「子供騎馬武者行列」が3年ぶりに開催され、水沢の中心市街地を練り歩きました。この行事は子どもたちが健やかに成長することを願い、昭和11年から行われています。今年は15人の子どもたちが騎乗。よろいかぶとを身にまとい、青空の下をりりしい表情で行進する姿に、沿道からは大きな拍手が送られました。

5月12日

国立天文台水沢が
ブラックホール撮影に貢献



国立天文台水沢V L B I観測所の研究者も参加する国際チームが、天の川銀河のブラックホール「いて座Aスター」の画像撮影に初成功しました。ブラックホールの撮影は元年に発表された「M87 銀河中心」に続いて2例目。研究には同観測所のスーパーコンピュータ「アテルイⅡ」も使用され、世界的な功績に貢献しました。

5月14日、15日、20日～22日

夜空を照らす藤のトンネル



「藤のトンネル」のライトアップが、歴史公園えさし藤原の郷で開かれました。施設の新たな魅力をつくろうと、平成27年度から整備を進めてきた藤棚。35本、長さ80メートルにわたって連なる藤が下からライトに照らされ、紫やピンク、白色に輝きました。来場者はスマートフォンを片手に記念撮影をしながら、優雅で幻想的な夜を楽しんでいました。

5月23日

学んだ知識を生かし
水工生が地域貢献



水沢工業高校の生徒が地域で電気設備の点検や清掃を行う「テクノボランティア」が本年度も始まりました。平成14年度から続いている活動で、電気科の3年生5人が堀ノ内公園体育館で街灯の蛍光管などの交換や清掃作業に挑戦。参加した千葉吏琥（しご）さんは「初めてなので緊張したが、学校で学んだとおりにできた」と手応えを感じていました。